

新たな   
杜の都への  
チャレンジ

“The Greenest City”SENDAIの  
実現に向けて

～ 実施報告書 ～

日時:令和3年10月31日(日)13:30～15:30

【オンライン開催】

主催:仙台市

---



本市では、今年度を始期とする「仙台市基本計画2021-2030」において、市民の皆さまや仙台に関わる方々を中心に多様な力を合わせながら、仙台の特性を最大限に活かして重点的に取り組むものとして8つのチャレンジプロジェクトを掲げ、“The Greenest City” SENDAIの実現に向けてさまざまな取り組みをスタートさせています。

このたび、参加者が仙台のまちづくりに関わる方とともにまちづくりについて考える「みんなのまちづくりフォーラム2021」を開催しました。このフォーラムには20名の方が参加し、8つのチャレンジプロジェクトに沿って、参加者が考える「仙台がこんなまちになったらいいな」を実現するために一人一人ができることについて、事例紹介やグループワークを通じて、実際に活動している方とともに考えました。



## プログラム

---

13:30 開会

13:35 <前半>まちづくりの実践者による活動紹介

－仙台市基本計画と、私のチャレンジプロジェクト－

- 基本計画の「まちづくりの理念」や「チャレンジプロジェクト」の紹介
- 出演者によるチャレンジプロジェクトに関連した実践例の紹介

14:00 休憩

14:20 <後半>グループワーク

－実践者と考える、私にできること－

※3グループに分かれて参加者の意見を共有

15:00 休憩

15:10 <まとめ>

15:30 閉会

## 出演者

### ■ 総合司会兼グループワークファシリテーター

地域社会デザイン・ラボ代表

**遠藤 智栄 さん**

仙台・東北エリアを中心に、NPO・自治組織・企業・行政等との協働連携や人材育成、組織開発、ワークショップ企画などを通じて「ひと育ち・まち育ち」を支援。仙台市総合計画審議会副会長として「仙台市基本計画2021-2030」の策定に携わった。



### ■ 活動紹介兼グループワークファシリテーター

特定非営利活動法人

都市デザインワークス代表理事

**榊原 進 さん**

仙台を拠点に市民主体のまちづくりを支援するとともに、都心を流れる広瀬川一帯の魅力を高める「せんだいセントラルパーク」の提案と実践、地下鉄荒井駅を起点とする「仙台海手ネットワーク」のコーディネートにも取り組む。仙台市総合計画審議会委員として「仙台市基本計画2021-2030」の策定に携わった。



### ■ 活動紹介兼グループワークファシリテーター

防災士／西公園プレーパークの会理事

**佐藤 美嶺 さん**

防災士として各地で子育て世代向けの防災講座等を行う傍ら、子どもの居場所づくりのために、屋外(西公園)での自由な遊び場である「西公園プレーパーク」を運営する。仙台市地域防災リーダー(SBL)としても活動。また、全国都市緑化仙台フェア開催に向け、同フェア基本計画検討会委員として携わる。



# <前半> 基本計画の「まちづくりの理念」や「チャレンジプロジェクト」の紹介

説明者: 仙台市まちづくり政策局政策企画部政策企画課長 綾部 正行



まちづくりの理念には、伊達政宗公から連綿と受け継がれてきたまちづくりを基盤に、世界からも注目をされるようなまちを目指して、皆さまとともに挑戦(チャレンジ)を続けていく想いを込めています。



さらに、「目指す都市の姿」として、杜の都のGreenに重ねた4つの姿を掲げています。この4つの姿の最上級「Greenest」を目指す姿勢を打ち出しています。



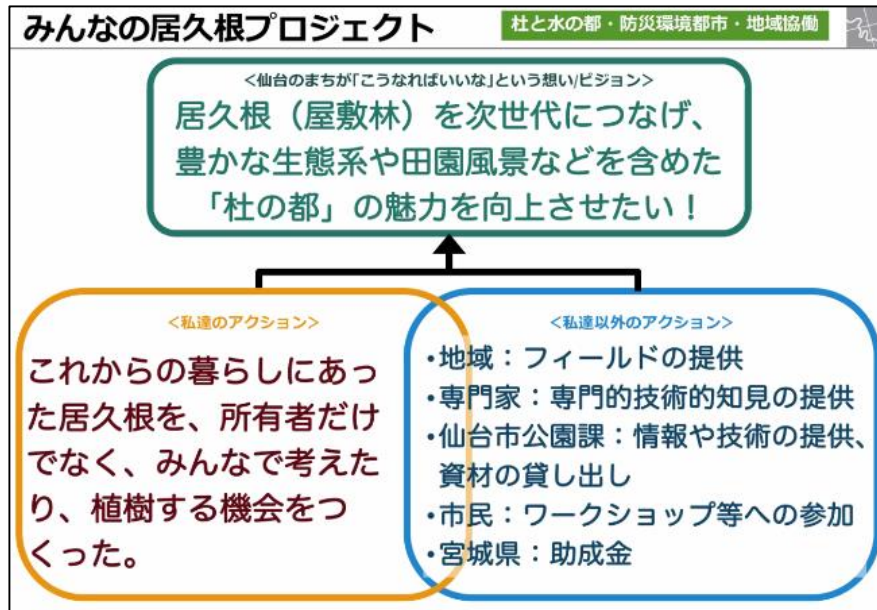
このまちづくりの理念を実現するために、今後10年間で重点的に取り組むのが8つのチャレンジプロジェクトです。行政だけではなく、住民の皆さまや地域団体、大学、企業などとともに成し遂げていく姿勢が特徴です。

# <前半> 出演者によるチャレンジプロジェクトに関連した実践例の紹介

実践者: 特定非営利活動法人 都市デザインワークス代表理事 榊原 進 さん

①

東日本大震災で被害を受けた沿岸部の南蒲生町内会の復興のまちづくりを支援していたときに、「居久根のある暮らし」について、町内会だけでなく、**みんな**で考えていけたらいいなという想いがあった



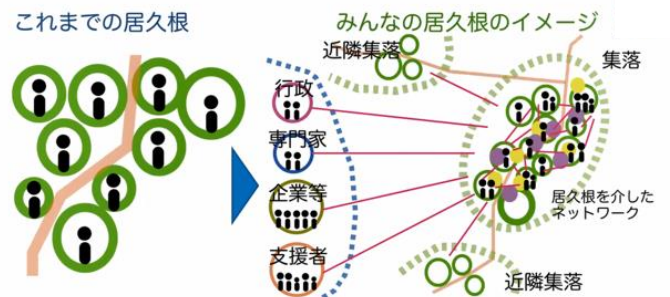
## みんなの居久根プロジェクトへの想い

居久根は仙台平野の原風景と言われるが、特に高度経済成長期以降、減少(伐採)してきたのも事実。震災で失って、その価値に改めて気づいた住民も多いが、高木が生い茂るこれまでの「居久根」を個人で所有・管理を継続するのは大変…。集落での暮らしや住まいも変わって、居久根に求められる役割も変化している。

**「自然の豊かさを暮らしに取り入れてきた先人の知恵」が「居久根」というカタチになったと捉え、次の世代に継承していくべき**

(仙台平野での)これからの暮らし方や自然との関わり方など復興まちづくりを契機に“みんな”で“居久根”を通じて考えたい。

## みんなの居久根プロジェクトの考え方



- ◆ 個人の所有・管理
- ◆ 境界、防風、燃料、肥料、用材…

- ◆ 多様な主体が参加する仕組み
- ◆ これからの暮らしや復興まちづくりに必要な役割、空間、カタチとは？

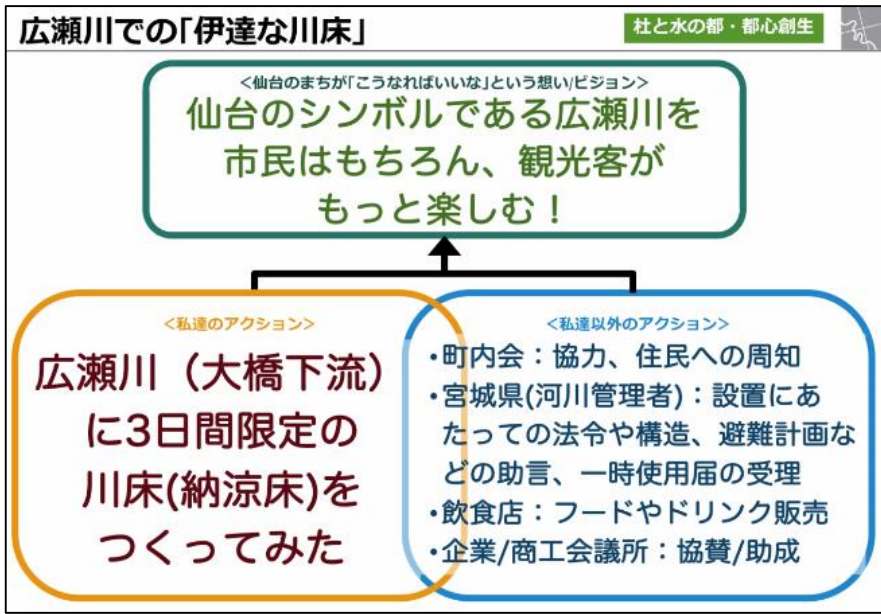
## 実際の活動の様子



居久根を次の世代へつなげていくために、南蒲生町内会へのヒアリングを基にパンフレットを作成

②

仙台市が実施した広瀬川に関するアンケート調査では、仙台市民の約75%は「広瀬川＝仙台のシンボル」と認識しているのに、広瀬川の水辺を訪れる頻度は約40%が「ほとんどない」。**遊びながら、楽しくやれるような活動**をしたいなという思いがあった



広瀬川を楽しむ「伊達な川床」



広瀬川の新たな楽しみ方を提供

榎原さんの実践例紹介を踏まえて、出演者によるクロストークを行いました。

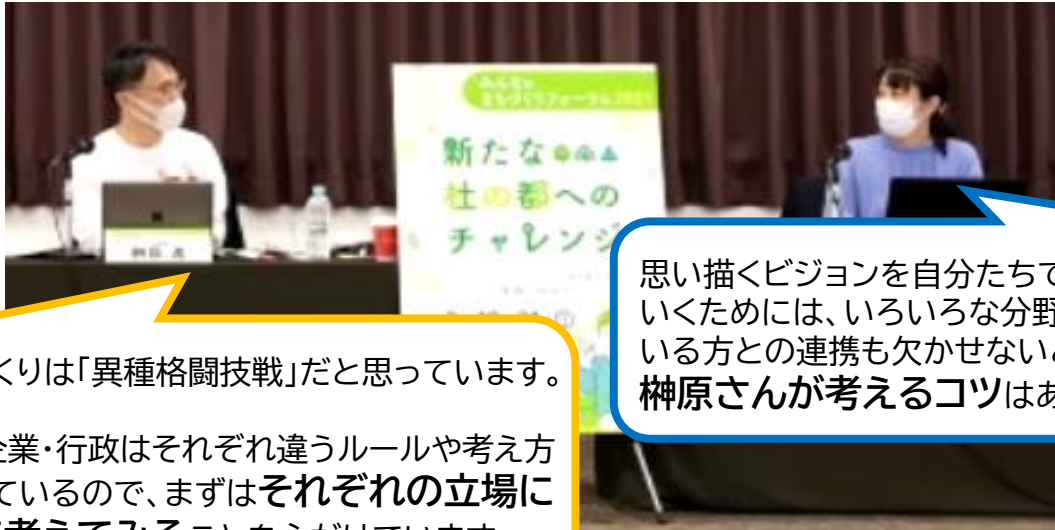


榎原さんの発表にもあったように、私たちが様々な活動をする中では、1つのチャレンジプロジェクトだけに関わるというよりは、**いろいろなプロジェクトと関連してくる**ということですね。

佐藤さん、発表を聴いていかがでしたか？

どれも魅力的で参加したいなと思いました！

特に、「今まであったものをこれらの暮らしに合ったものにしていく」「**楽しく参加できること**」をキーワードとして活動されている点が印象に残りました。

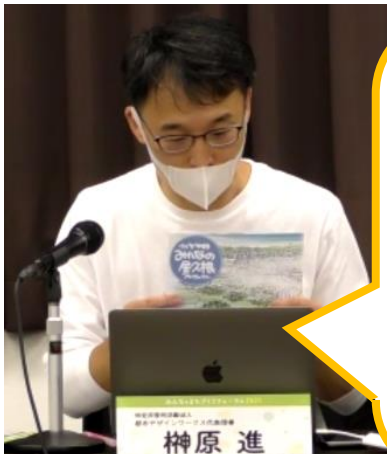


まちづくりは「異種格闘技戦」だと思っています。

地域・企業・行政はそれぞれ違うルールや考え方を持っているので、まずは**それぞれの立場になって考えてみる**ことを心がけています。

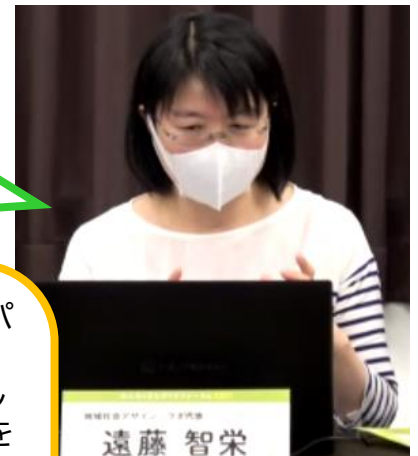
思い描くビジョンを自分たちで具体的にしていくためには、いろいろな分野で活躍されている方との連携も欠かせないと思いますが、**榎原さんが考えるコツ**はありますか？

まちづくりの活動をしている中で、資料を制作してお示しすることで、**地域の方の自信につながった**と感ずることはありますか？



みんなの居久根プロジェクトを紹介するパンフレットを制作するときに、地域の方々のかつての暮らしぶりなどをヒアリングした内容も加えました。また、**絵やフォントを描くのが上手な方に、パンフレットの題字を担当してもらいました。**

関わりをもってもらったパンフレットが形になると、**地域の方も「自分ごと」として積極的に広報**していただきました。



# <前半> 出演者によるチャレンジプロジェクトに関連した実践例の紹介

実践者:防災士/西公園プレーパークの会理事 佐藤 美嶺 さん

①

災害への備えが  
日常に溶け込み  
それがまちの魅力  
になるといいな

防災・減災の備えを  
日常生活に織り込むための活動

- 細かなニーズに合わせた防災講座
- 「日常」に織り込める備えを紹介
- 実践的な備えのコツの紹介
- 地域の防災訓練への協力
- 防災教育への協力
- 災害を経験した方の“声”を他地域へ発信



## ● 細かなニーズに合わせた防災講座

### <テーマ例>

- 【乳幼児親子】 家族で考える防災・減災
- 【育児支援者】 子どもを守る防災力・減災力  
～子育てサポーターのみなさんに知っておいてほしいこと～
- 【高齢者】 自分で自分の身を守る 防災・減災
- 【外出先】 外出先で？！もしもの備え～備える意識”持ち歩き”のススメ～
- 【多胎家族】 多胎家族の防災・減災～ふたごちゃん、みつごちゃんと一緒に災害を乗り越えるために～
- 【女性】 女性目線を活かすために  
～私たちができること～
- 【町内会】 地域で子育て応援 防災と減災
- 【保育所スタッフ】 災害を子どもと一緒に乗り越えるために



## ● 「日常」に織り込める備えを紹介



手遊びで身を守るポーズを日常に  
(仙台市内での防災講座)



遊びに取り入れられる知恵を紹介 (折り紙食器)

## ● 実践的な備えのコツの紹介



備蓄のコツを写真で紹介



非常持ち出しリュックのコツを紹介  
(仙台市内での防災講座)

## ● 地域の防災訓練への協力



SBL (仙台市地域防災リーダー) として参加  
(青葉区の小学校体育館)

## ● 防災教育への協力



まち歩きワークショップ (青葉区の児童クラブ)

## ● 災害を経験した方の“声”を他地域へ発信



東京都品川区での講演 (乳幼児親子対象)



神奈川県横浜市での講演 (乳幼児親子対象)

## 周囲との関わり

あらゆる分野で防災が日常に取り入れられるよう  
地域・団体・企業・行政など  
との協働がとても重要

### 関わり方の例

- 【地域】 地域防災に取り組む  
⇒ 地域の特性に合わせた情報や訓練を一緒に考える
- 【行政】 防災関連情報を提供・学ぶ機会をつくる  
⇒ 情報をニーズに合わせて市民にわかりやすく伝える
- 【企業】 防災に役立つ製品をつくる  
⇒ 製品があると助かる方に紹介する
- 【団体】 多様なニーズに合わせたきめ細かい支援  
⇒ 必要な方に届くように、つながるための方法を紹介



②

子育てを楽しくできて  
子どもがいろいろな場所で  
主体的に遊ぶ  
まちになるといいな

子どもたちの未来が広がる環境を  
つくる活動

### 西公園プレーパークの会のパークマネジメント

- ハード環境（公園施設）マネジメント
- ソフト環境（地域連携）マネジメント
- オペレーション（現場運営）マネジメント
- コミュニケーション（関係づくり）マネジメント



### 西公園プレーパークとは

- ◆子ども達がいつでも行ける！誰でも遊べる！
- ◆「やってみよう！」に挑戦できる！
- ◆プレーリーダーがいる西公園にある遊び場

#### 西公園プレーパークの願い

子どもが外で元気に育ちますように  
みんなに出番がありますように

- ・子どもの育ちへの願い（子どもの健全育成）
- ・親の子育てへの願い（子育て家庭の支援）
- ・西公園・地域への願い（まちづくり）
- ・遊び場づくりへの願い（市民・企業・行政の協働）



遊びの主体が子どもであることを大切にしています。  
危険を排除せず、危険管理できる環境をつくります。

#### ●ハード環境（公園施設）マネジメント



遊びの入り口となる遊び道具を設置



ベンチやテーブルを設置

#### ●ソフト環境（地域連携）マネジメント



近隣幼稚園との連携



企業ボランティアの受入

#### ●オペレーション（現場運営）マネジメント



何度も話し合いを重ねながら運営



親を中心としたボランティアに支えられている

#### ●コミュニケーション（関係づくり）マネジメント



乳幼児親子との関係づくり



子ども同士の関係づくり

### 周囲との関わり

プレーパークが子どもの居場所になるように  
孤立しない子育てができる場になるように  
安定した運営が課題

#### 関わり方の例

- 【地域の子ども関係施設】西公園プレーパークの活用  
⇒外遊びの視点を伝える、場づくりを行う
- 【行政】公園全体の管理、公園施設設置管理の許可  
⇒情報共有・連携しながらプレーパークを運営
- 【企業】環境整備への協力  
⇒ボランティアの受入、活動への理解
- 【西公園に関わる団体】イベントなどでの協力  
⇒パークマネジメント報告会による意見交換

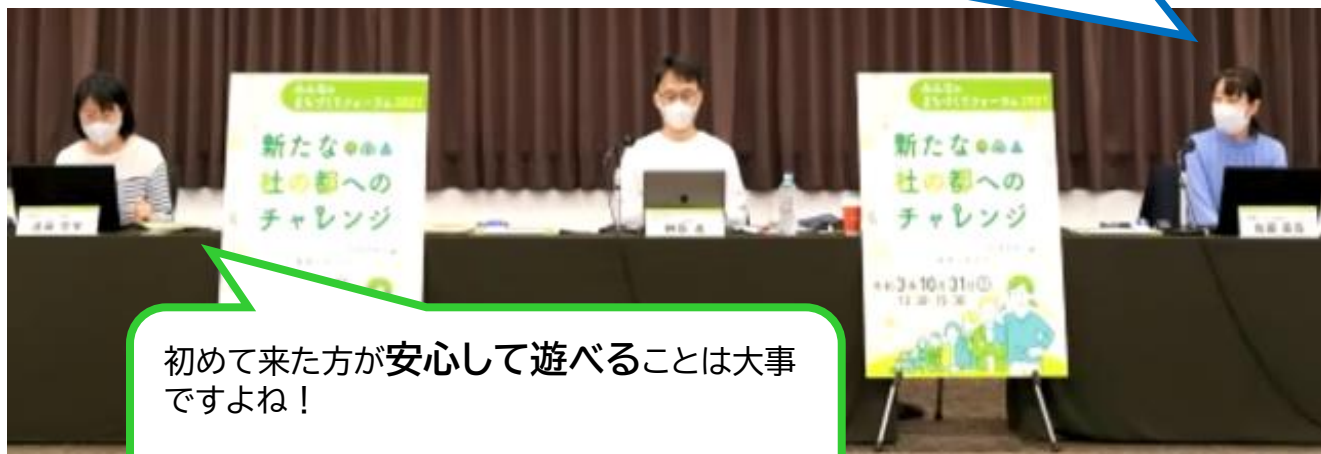
佐藤さんの実践例紹介を踏まえて、出演者によるクロストークを行いました。



佐藤さんは日常に取り入れやすいような防災の活動、愛情や連携が感じられる西公園の取り組みを紹介されたのが印象的でした。

西公園には近くにお住いの方以外も遊びに来ることはありますか？

遠くから遊びに来てくださる方もいます。初めて来た方も、いつも来ている方も同じように楽しく遊べるような声掛けを心がけています。



初めて来た方が安心して遊べることは大事ですね！

榎原さん、発表を聴いていかがでしたか？

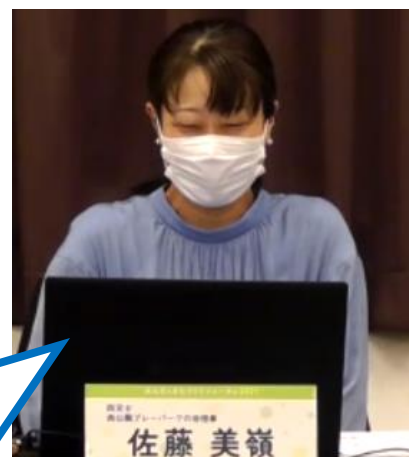


佐藤さんをはじめ活動に関わる方が波紋のように広がっていると感じました！

近年は、コロナ禍で活動が制限されることがあったかと思いますが、どのような工夫をして対応しましたか？

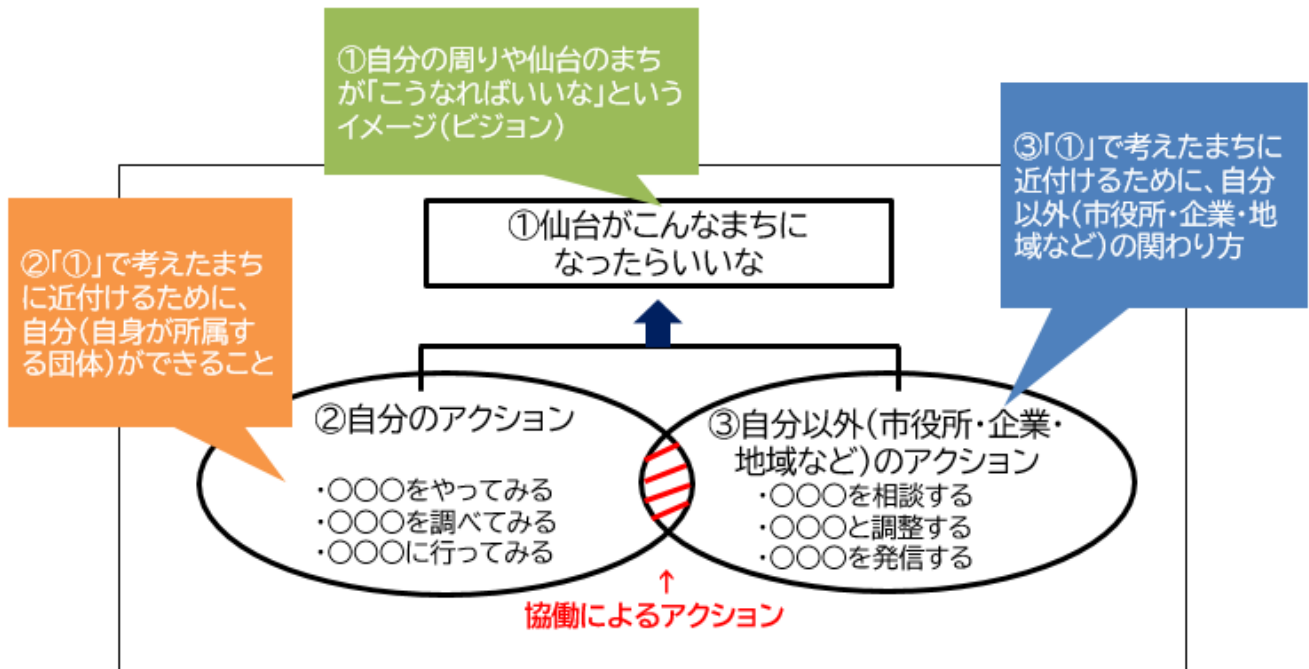
防災の取り組みはリモートを最大限に活用しており、公園での子どもたちの遊びについては、飛沫防止を優先しながらも完全に制限するのではなく、遊び方を変えることで楽しめるものはないか模索してきました。

たとえば、シャボン玉をストローで吹いて飛ばすのではなく、たらいのシャボン玉液に毛糸を浸し、それを木に結び付けて飛ばす遊び方に変えてみるような工夫をしてきました。



## <後半> グループワーク —実践者と考える、私にできること—

後半のグループワークでは3つのグループに分かれ、「仙台がこんなまちになったらいいな」というビジョンと、それを実現するための「自分のアクション」・「自分以外のアクション」を発表し、出演者と一緒に考えました。



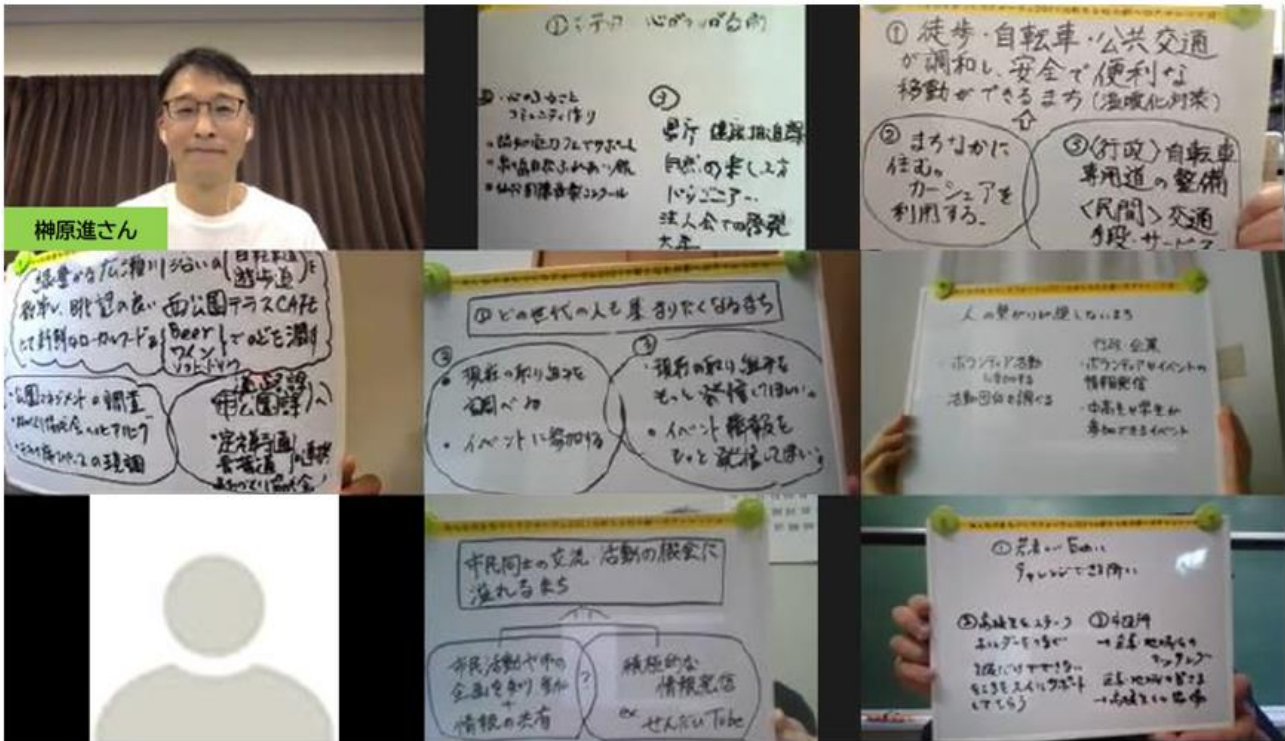
次のページからは、参加者から発表があった内容(概要)をグループごとにまとめています。









🍀 Aグループ:グループファシリテーター／榊原 進 さん …P11


🍀 Bグループ:グループファシリテーター／遠藤 智栄 さん …P12

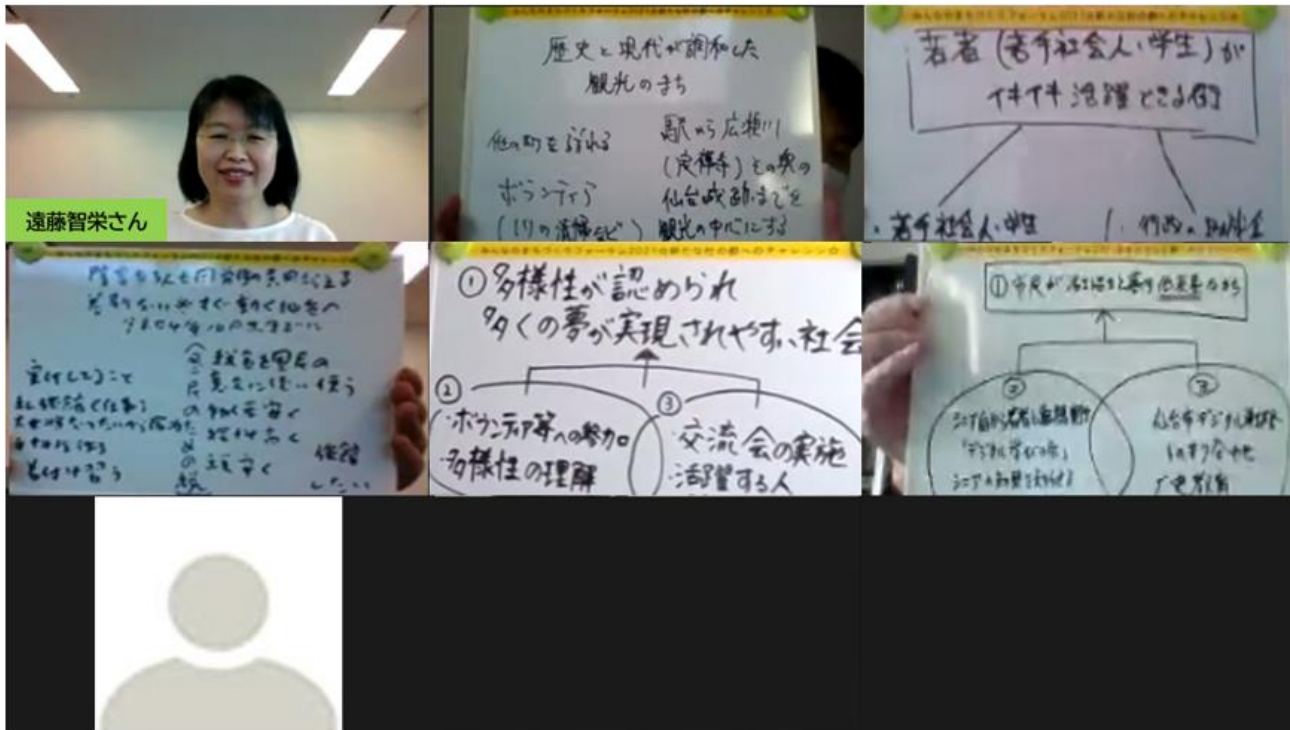
🍀 Cグループ:グループファシリテーター／佐藤 美嶺 さん …P13







※通信環境等の関係で画面が表示されなかった方は、イラストにしています。

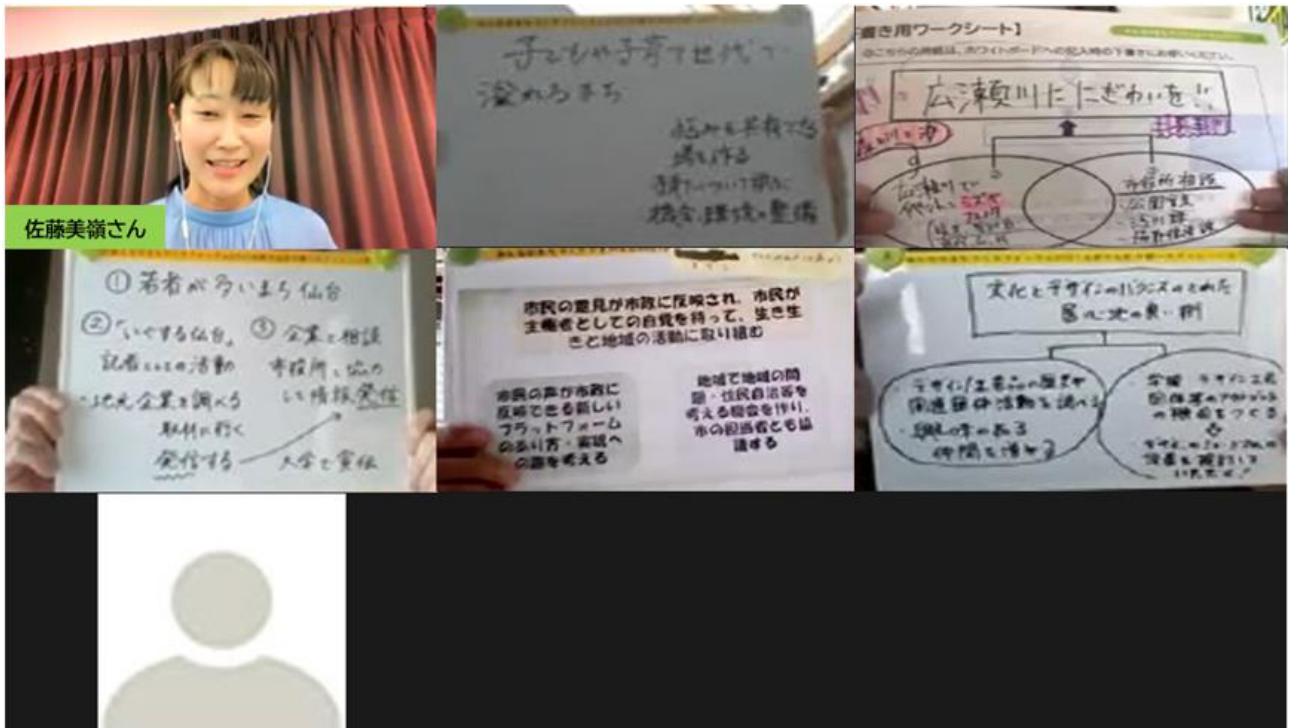


-  緑豊かな広瀬川沿いを、老若男女が楽しめるような自然空間にしたい。西公園の展望テラスカフェをつくりたい。
-  中高生や学生もまちづくりに参加しやすくするため、企業や行政は学校を通してボランティア活動の情報やイベント案内などを発信して欲しい。
-  自身のボランティア活動を通してコミュニティの輪を広げていきたいし、地域で支えられる環境づくりにつながるような啓蒙活動をこれからも続けていきたい。
-  行政から若者世代への情報発信が必要で、特に何も知らない人への周知がきっかけとなり、それぞれの行動につながれると考えている。「せんだいTube」は有効な手段だと思う。
-  歩行者と自転車と車が混在しているところがあるので、一体的な整備が必要。また、自家用車による混雑を避けるためにも、JRや市営地下鉄、バス、DATEバイクのような交通手段を総合的にデザインして、機能を強化しても良いのでは。
-  行政は事業の取り組みやイベントの案内を積極的に発信して欲しい。市民側も気付いていないので、たとえばスタンプラリーのように楽しめて知れるような仕掛けを行うなど、通常の広報に加えてみてはどうか。
-  自分自身も高校生と企業やステークホルダーのつなぎ役であるが、市役所には活動の参考になるような企業の事例を紹介するなど、仲介の役割を期待している。
-  住み続けたいくなるような仙台になって欲しい。

 Bグループ:グループファシリテーター／遠藤 智栄 さん



-  障害や車いすでも受け入れてもらえて、いろいろな活動がしやすいまちになって欲しい。
-  シニア層も若者世代と連携して社会課題を勉強できたらと思っている。たとえば、若者世代からはスマートフォンのようなデジタル技術を教えてもらい、シニア層は歴史や教育史などの知識が豊富な方がたくさんいるので、一緒に学べるのでは。
-  仙台駅から仙台城址まで歩いて楽しめるような、歴史と観光を大事にするまちになって欲しい。
-  若者世代の可能性を伸ばすことや、性別やジェンダー(社会的性別)で差別せず大事にし合うことで、多様性が尊重されるまちになって欲しい。
-  仙台には外国人の方々も多くいらっしゃるので、お店などで出会うだけでなく、もっと踏み込んで関わっていただけたいと思っている。
-  仙台は支店や学生の数が多いので、若手社会人や学生のような若者世代がイキイキと活躍できるまちになって欲しい。自分が運営している団体も、より幅広い層の方に参加してもらえるようなコミュニティにしていきたい。



- ▲ 文化とデザインのバランスのとれた居心地の良いまちになって欲しい。個人的な想いとしては、**仙台市にデザインのミュージアムの設置**をお願いしたい。
- ▲ 仙台市基本計画は美しいが、多くのまちづくりの計画は策定して終わってしまう印象がある。実現に向けた取り組みにつなげるために、**市民の意見がきちんと市政に反映される仕組み**を整えて欲しい。自分自身も地域の方と一緒に、どのような枠組みであれば意見が反映されるのかを考えている。市民が生き生きとまちづくりに参画できるようなまちになって欲しい。
- ▲ 広瀬川の水辺の活用を通していろいろな方とつながり、参加者だけでなく活動者も増やしたいと考えている。東京都の二子玉川の活用事例を参考に、近隣住民にも配慮しながら、**若者世代にも訪れてもらえるようなイベント**を行っている。今後は、**仙台の森と川と海を一体的に盛り上げていきたい**。
- ▲ 仙台市基本計画にもあるように仙台は「学都」であるが、就職を機に仙台を離れてしまう大学生もいるので、就職地として仙台を選んでほしい若者が多いまちになって欲しい。自分自身は**記者として地元企業を取材し、紹介記事を発信**している。精力的に活動することで地元企業のことをより知ってもらい、若者が増えるきっかけになればと思っている。
- ▲ 子どもや子育て世代で溢れるまちを実現するためには、**対面だけでなくSNSも活用しながら子育ての悩みを共有**できる場をつくり、お互いの経験を活かせるような機会があればいいと思う。

## <まとめ>

グループワーク終了後に、出演者に各グループで発表された意見の紹介と、それを踏まえた感想をお話いただきました。出演者の感想を紹介します。



まさに、仙台市基本計画に掲げる8つの**チャレンジプロジェクト**に、皆さんの活動が相互に複数的に関わっているなと感じました。

榊原さんと佐藤さんは、今回のイベントを通して気付いたこと、感じたことを教えてください。

昨年度、遠藤さんと一緒に出演した仙台市基本計画策定に向けたシンポジウムに参加された方が、今回もご参加されていて、とても嬉しかったです。

また、若者世代へ十分な情報が届いていないため、興味はあってもイベントに参加できていないのではという意見もありました。もちろん行政側には継続的に発信をしてもらいたいですが、市民側もアンテナを張っておかないと意見が反映されないの**自分で得た情報は家族や友達、地域の方に共有して広めて欲しい**なと思いました。

そうすると、なかなか伝わりにくい行政の情報が、皆さんを介して浸透していくのではないかと思います。



「こんなことを自分ではできないのではないか」「こんなことをやってみたい」という前向きな発言が多かったことにとても驚きましたし、嬉しかったです。

グループワークの中で、**参加者同士が「一緒にやろうよ」「一緒に活動できるかもしれないね」という声掛けをしていた**ので、ぜひこのような機会をきっかけに、同じ分野はもちろん異分野もどんどんつながってたくさんの活動となり、仙台の魅力になっていくといいなと思いました。



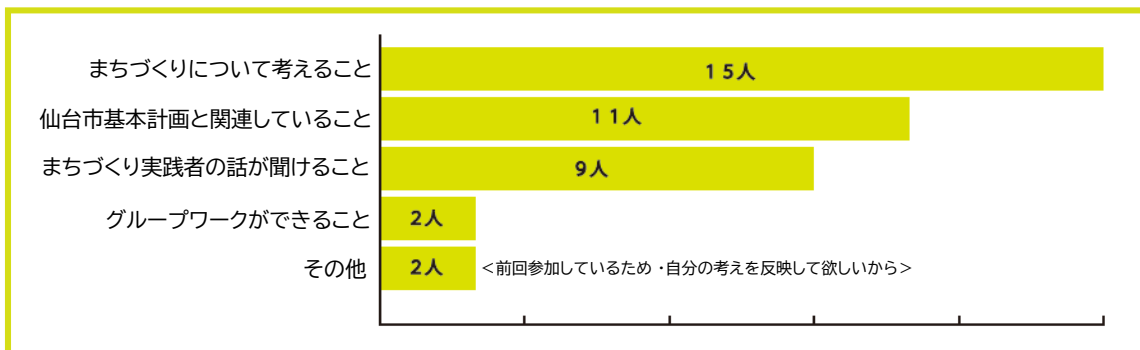
皆さんのビジョンが少しずつ重なっている部分もあり、「これから連携できるといいですね」という話になりました。**今日の出会いを次の活動にも活かしていただきたい**ですし、オンライン開催だからこそ、チャット欄に活動の内容やURLなどを情報共有できたと思っています。

情報を入手できたあとは、**実際のアクションを起こすことが大事**になるので、また皆さんと一緒に活動できたらなと思います。

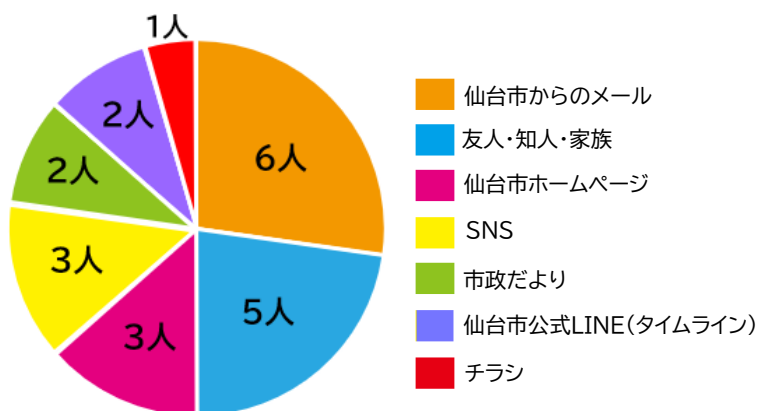
「自分のアクション」は皆さんに明日から実践していただき、「自分以外のアクション」はいろいろな出会いの中で連携・協働できそうな仲間やパートナーを探してみたいと思いました。

# アンケート集計

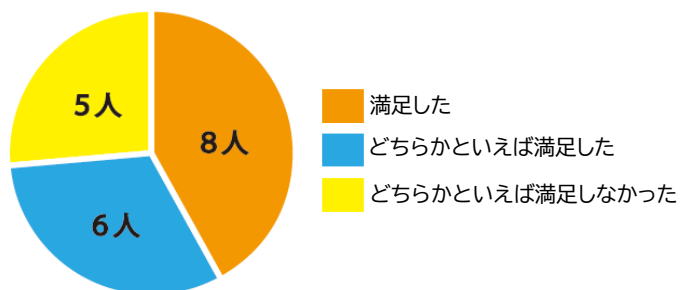
●このイベントのどういうことに興味があって参加されましたか？(複数回答可)



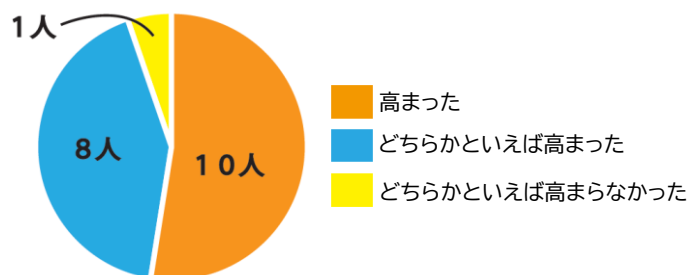
●このイベントをどこでお知りになりましたか？(複数回答可)



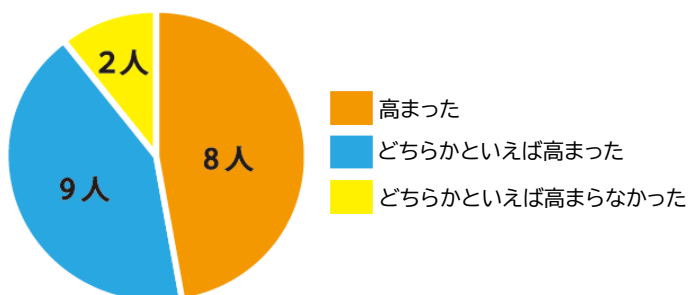
●このイベントに参加してみたの満足度をお聞かせください。



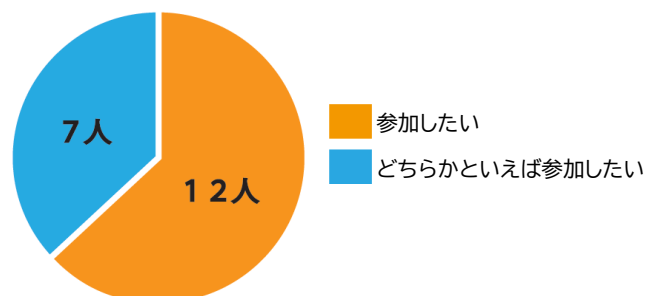
●まちづくりに関する興味や関心は高まりましたか？



●仙台市基本計画への興味や関心は高まりましたか？



●今後同じようなイベントがあったら参加したいですか？





## 参加者の感想

実際に街をよくしようと取り組みをされている方や良くしていきたいと考えておられる方々のお話が聞けて良い経験でした。

このような場を設けてくださりありがとうございました。またこのようなイベントがあれば参加させていただきたく存じます。

たまたま見た公式のタイムラインで今回のフォーラムを知り、参加させていただきました。まちづくりについての知識等が全くなく不安もありましたが、さまざまな世代や職業の方のお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今は仙台を離れていますが、大学卒業後は仙台で働きたいと改めて思いました。

このまちづくりフォーラムから、さらに発展して、実際の取り組みを行政と市民とPDCAサイクルまでやれるとすごく面白いものになると思った。異業種がタックを組んで取り組むと新しい化学変化が生まれて、今までとは違った切り口でアプローチできそうだなとワクワクしながら、参加できました。

実践者の取り組みは大変参考になりました。せっかく集まった方々と一回限りで終わるのはもったいないので、LINEグループなどを作って交流できれば、まちづくりが活発化すると思います。

私自身は、まちづくりにおける「協働」について深く知りたいと思い、今回のフォーラムに参加させていただきました。

私と同じ学生の方、会社員の方、ボランティア活動に従事している方、そして学校の先生など、予想以上に幅広い立場・年齢層の方々の意見を聞くことができ、実りある時間でした。

まちづくりに対し、すでに行動を起こしている方や明確なビジョンを持っている方が多くいらっしや、若干圧倒されてしまいましたが、今後私がいちまちづくりというものに主体的に関わっていこうと考える、貴重な機会になったと思います。

ディスカッションの時間がもう少し欲しかったです。他のグループの方とディスカッションがしたかったです。継続性があると良いと思いますので、またありましたら参加させていただきます。

役所側との会話を増やした方が良い。また、オンラインイベントも増やすべきと思う。

時間が足りないように感じます。(かなり内容を絞って発言しました)  
また、複数回の参加にして、具体的に掘り下げるのも良いと感じました。話を聞いた限りでは、連携できそうな人達同士の人もいるように感じました。

多方面の分野でそれぞれ創造的な活動をされていることに感心しました。いろいろな活動の連携の必要性を皆さんが訴えていました。仙台市にお願いしたいことは、皆さんが集える場(集会場)が逼迫しており、気楽に集まれる会場が限られていることが活動の障害となっています。市民の活動を支えるためにも市はこうしたハードの面での改善をして欲しい。

個々の参加者の取り組みや考えを聞く時間がもっと欲しかったです。

Zoom形式での運営スケジュールに工夫が必要。この時間で2回の休憩は多すぎて、肝心の対話時間がなくなったのは残念。全体時間を1時間程度延ばして、対話時間を設定して欲しかった。  
また、送付されたホワイトボード利用の手法はZoomシンポジウムとは合わないのでは。個人ごとのカメラとポイントずれが目立ち、見にくかった。次回の企画には是非、時間設定と十分な対話スケジュールを切望したい。

幅広い年齢や目的の違う人達の中でも、微妙にどこかが重なり、意外な化学反応が起き、新しい結果につながる可能性があるので、このような機会はとても大切だなと思います。

直接私たちの意見を聞き入れてくれないと何にもならないので、本当に国民の意見をわかりやすくとりいれた、そんな町づくりを仙台にして欲しい。

